

平成 29 年度第 2 回阿南町総合教育会議議事録

日 時：平成 29 年 12 月 25 日（月） 13 時 00 分から 15 時 05 分

場 所： 阿南町役場第一会議室

平成 29 年度第 2 回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会 総務課長
- 2 あいさつ
(1) 町長
(2) 教育長
- 3 意見交換
(1) 小規模学校・少人数学級における教育環境のあり方について
(2) 2020 年に向けた I C T 教育環境のあり方について
- 4 懇談
平成 30 予算編成について（お願い）
- 5 閉 会 総務課長

《出席構成員》

町 長	勝 野 一 成
教育長	南 嶋 俊 三
教育委員	猪 切 信 子
教育委員	大 倉 康 生
教育委員	林 一 仁

《欠席構成員》

教育長職務代理	金 田 修
---------	-------

《事務局》

総務課長	松 澤 享
総務課行政係長	伊 藤 恒

《出席職員》

教育委員会事務局長	岡 田 六 久
〃 社会教育係長	大 平 正 章
〃 子ども教育係長	村 山 俊 行

- 1 開 会
○ 松澤総務課長

どうも、皆さんこんにちは。

これから平成 29 年度の第 2 回総合教育会議を始めさせていただきます。よろしくお願いします。それでは最初に町長のあいさつからお願いします。

2 あいさつ

○ 勝野町長

改めましてこんにちは。暮れにお忙しい中をお集まりいただきまして、第 2 回の総合教育会議ということでお世話になります。ご承知のように、地域の状況で、特に教育を取り囲む環境で、いろんな面でいろいろな問題が多発しております。人が減るといのは、いろんな点で大きな問題になって来ておりまして、町でも本格的にいろんな、具体的な解決策を実施して行かなくてはならない時期を迎えておりまして、非常に難しい時期になりました。

そういった中で、皆さんにそういった観点から、町教育委員におおかれましては、いろんな智恵やご示唆をいただきながら、どうしても確実に前に進むことができるよう、今後ともいろいろお世話になる訳ですが、いろいろとお願いを申し上げまして、あいさつに変えたいと思います。お世話になります。よろしくお願いします。

○ 松澤総務課長

続きまして、南嶋教育長からあいさつをお願いします。

○ 南嶋教育長

それでは改めまして、ご苦勞様でございます。今年もあと 5 日余りとなりまして、今年一年お世話になりまして、まずは感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて昨日の話になりますが、今日の新聞を見ますと、全国高校駅伝が男子・佐久長聖高校が優勝して、女子が長野東高校が準優勝。高校駅伝始まって以来の快挙でございます。長野県の駅伝というものが、私がやっている頃は、まだ 30 何位、40 位前後の順位でございました。そんな中で現在は、優勝・準優勝を争うレベルになっておる訳でございます。そんな中で女子の長野東高校の玉城監督は、阿南高校にちょうど松下健の頃 2 年ばかりまして、すぐに長野の方へ引っ張られて行っちゃいましたが、あのままだら結構強くなるのかと思いましたが、2017 年の締めくくりとしては、非常にいい話題だったかなあとと思います。

今日は総合教育会議ということで、若干時間をいただいております。まずは教育についてでございますが、それぞれ教育の内容といい学びといい、ICT が入ってきて、学びの手法もだいぶ変わってきて、そしてまたそこに携わる学校教員も、業務内容も多様になってきて、そしてまた ICT の勉強もしなきゃいかんということで、大変になってきているわけですが、一方では子どもの学びの姿勢というものが少子化に伴って、前々から言うように少子化が原因だろうと思うけど、指示世代・指示待ち族というようなことで、他者から指示をされないと動けない子どもが非常に多くなってきていると、いうことであります。

そして一方では保護者が少子化で、子どもの数が少なくて倍かわいくて子離れできない保護者・親になっている訳でございます。ひとつ 1 つ見てみれば保護者が、どちらかというと他力本願的な、子どもを自分で産んで自分で責任をもって育てる事が、できない親が非常に多くなってきた感じがします。そんな中で親に喝を入れてあげたいな、という気持ちを持っている訳でございます。

そんな子どもたちを阿南町としましては、フロンティア・アドベンチャー的な、非常にたくましい子どもたちを育てたいということで、教育方針・対校そしてスローガンをあげて取り組んでいる訳でございます。先生方においては去年レポートを書いていただいて、それなりの意識を持っていただいて、考動力について取り組んでいかせました。そんなこともあってまずまず取り組んでもらっているのかなあとと思います。先ほどの話により家庭・保護者に関しては、考動力についてはまだ周知徹底、教化がなされていないなあと感じる訳でございます。

そんな訳で見ますと、通学合宿等を見ますといくらか親も変わって来たのかなあとというふうに思いますし、通学合宿を見てると最初の頃、大平さんあたりもだいぶ最初苦勞をしましたが、自分の手から子どもを手放すのに非常に抵抗感があり、通学合宿 3 泊させるだけでも、“なんでそんなことをしなきゃいかん”ということで、非常に抵抗感があつた訳でございます。

そういうのが 3・4 年続きますと理解をしていただいて親がその気になっていただいている感を受ける訳でございます。

いずれにしても、人作り・人材作りにつきましては、今申し上げたように行動力的なところが、基礎・基本的となると思っておりますので、その基礎・基本となる学びへの意欲・やる気を繋げていければと思っている訳でございます。是非、学校と保護者・地域がいっしょになって、強いて言えば“他の市町村とちょっと違う子どもを育てたいな”という意欲があるわけでございます。是非そんなところをお汲み取りいただきまして、首長さんたちの部局につきましても、ご協力いただけたらありがたいかなあと思う訳でございます。

「国家百年の計は教育にあり」という言葉と、「教育は国家百年の大計である」そしてまた「教育の計は百年にあり」というようなことを言われますので、地道に努力をしていくこういうことが、時間がかかるかもしれませんが、正しい子どもを育てる秘訣になるのじゃないかなあと思います。

それから次に、2020年から新学習指導要領に向けて、ICT教育が入ってくる訳でございます。近年におきましては喬木村が先頭的にやっている訳でございますが、いずれにしても32年の4月から新学習指導要領の改訂に向けて、各市町村がそれぞれの予算に基づきながら向かって行く訳でございますが、いずれにしても将来においてプログラミング的な教育が始まる訳でございますので、学習・学びの指標としてこのICTというものが必要になってくるだろうと思う訳でございます。ただ一方で、私的な考えではありますが、ICTの画面だけではやはり、今申し上げたような考動力を始めとするフロンティア・アドベンチャー的な人間形成はできないのじゃないかなあと思いますので、パソコンやタブレットの画面で学習するのは、興味関心があって勉強に向けるかもしれないけど、人間関係を作るという意味では画面ではできないと、つくづく思っている訳であります。そんなこともありますので、今申し上げたことを含めて、ICTは基本的に整えていかなければなりません、成功事例とかメーカーのノウハウを活用していったって、32年の4月から新学習指導要領が出来るような、基本的な最低限の体制はだけは、整備だけはしていただければありがたいと思いますし、町長さんを始め来年度の予算が、今年度から整備が入っている訳でございますが、来年度から予算付けをしていただければありがたいかなと、こんなことを願っている訳でございます。

それからもう一つ、新学習指導要領にむけて英語活動、それから英語教育・外国語教育というように、現在も移行期に入っている訳でございますが、これも2020年から小学校3年4年生には35単位35時間、そして5年6年には70時間というような時間が、入ってくる訳でございます。これもまた今の時間は減らさないで、その上に35時間・70時間を組み込まなきゃいかんということになっておりますので、これもまた大変なことで、何を削っていくのかというところが非常に悩むところでございます。一方では、外国語を教えることができる先生の確保が、全然できてないにもかかわらずやりなさいということも矛盾している。加えてALTも確保していきなさいということでもあります。しかし阿南町の場合は、前々から2人のALTを雇っていただいておりますので、そんなところを加味しながらやっていかなきゃならないなと思っているところであります。

それから3つ目として、少子化に向けて、この後意見交換の中でもある訳でございますが、「教育環境のあり方検討委員会」が立ち上げられて、3回になる訳で、1回目はこんな趣旨でこの委員会が立ち上げられたんだというところの説明をしながら、2回目は、県教育委員会の方から小規模校少人数学級の、メリットデメリットについて学習会を1時間した。3回目には現状を知らなきゃなりませんので、阿南町の6校の現状について各校長から話をさせていただいて、ある程度阿南町の現状を把握できたんじゃないかなと思います。そんな訳であり方検討委員会の方では行っておりますが、一方で南部の各委員会等で、小規模少人数学級について話をしている訳でございます。まづ第一に、飯伊市町村教委の教育長と教育長職務代理の各5町村の2人集まった会議の中で、ぜひこれからそういう少子化に向けての教育環境のあり方について、考えて行かなければならないと私の方からお願いをした訳で、その後11月17日に、社会教育委員と教育委員、それから公民館長の集まりの研修会の中で、教育環境について意見交換をさせていただきました。今年度の終わり2月ころには、泰阜が当番になっておりますので、そんな中で南部の教育環境のあり方について、町長さんと教育長さんと職務代理という三者で集まっていたいて話しをする機会がございますので、その中でこれからの方向性について話し合っていたいただければありがたいかなあ、こんなことを思う訳でございます。こういふようなことで南部の方へつなげていく、まずは阿南町の保育園、それから小学校についてはまづまづとしまして、中学校においてはできるだけ早く、統合という波に向けて取り組んでいただいて、その上に立って南部の統合中学校を考えて行かなきゃならん、という事を思っており

ますので、これが強いて言えば阿南高校の再編、特色ある学校づくりにも、またつながっているんだろうなと思いますので、こんなところを汲みながら、教育環境のあり方についてお願いできればと思います。

最後になりますけれども、阿南町の資産というものが沢山ある訳で、特に教育委員会が管轄する、祭り文化財を始めとする美術館、博物館、西尾實館等々の財産がたくさんあるわけで、この財産について将来、後世にどういうふうに継承していったらいいか、というところも考えて行かにならんと思います。これも一つの近々な課題だなと思っておられますので、教育委員会の中で前向きに考えて行きたいと思いますので、町長さんを始め町長部局の方でもご協力をよろしくお願いを申しあげたいと思います。何点か申し上げましたが、この総合教育会議の中でいろいろ検討していただいて、前向きに考えていただければありがたいと思います。

長くなりましたが、いくつか話をさせていただきました。終わります。

○ 松澤総務課長

それでは、今日お配りの次第の項目に沿って進めさせていただければと思います。

3の意見交換でございますが、「小規模校・少人数学級における教育環境のあり方について」をまず一つ議題として上げさせていただいて、資料No.1につきまして事務局の方から説明をお願いします。

○ 岡田事務局長

はい、ご苦労様でございます。それでは説明します。座らせていただいて説明させていただきます。資料No.1と書いてありますが申し訳ございません。頁ナンバーが4ページからになります。

これが11月17日、南部地区の教育委員と社会教育委員の研修会がありまして、南部の5ヶ町村の役の方が集まっていた中、分科会の記録でございます。かいつまんで紹介していきます、後ほどの検討の資料になればと思ひまして、資料に付けさせていただきました。まず、

＜添付資料に従って、各分科会の意見を紹介する＞

いろんな町村の実状的なもので、個人の意見でございますがこういったものがありましたので、紹介させていただきます。

○ 松澤総務課長

今、事務局長の方から、分散会における意見の概要を説明された訳ですけれども、その件につきまして何か、ご質問・ご意見等がありましたらご自由に言っていただきますようお願いいたします。

【意 見】

- それぞれの意見があるんだけど、今朝の新聞も今までに無い最高の出生数の更新をしたと、今までに無くまた更に減ったというんだが、そして広域連合や町村会へ行ってみるんだが、人口の飛び出したやつも順番におきるといふ、増えんのだに。もっとよく振り返って考えてみると、日本は昭和20年に敗戦を迎えたんだが、敗戦の前後にある程度若者の生きとった衆、その人たちがここを離れられない立ち位置にあって、先祖からものを受け継いで守っておって、その人たちが死ぬ番になった。死んで行くのは年が来たのしょうがないんだに。その衆が減るのはいいんだが、その衆から後の子どもがどういう歴史を追って来たかというと、学問ばかり身に付けてみんな都会へ送り出して行った。学問つけるにも、都会へみんな田舎から金を送った。その当時 戦争負けるちっと前からたまらんもんで、今山の木がちっとはあるが、昔の写真みりゃあ、山が丸裸なんだよな。全部木を切って使っちゃうので土石流ばかり出て、それでどんどんと植林をさせたんだが、敗戦後とても追いつかんもんで、材が無いもんで、外材輸入を無関税でどんどん始めてしまった。それがずーと続いとるもんで、国産材だって終戦当時に植えて70年経っても勝負にならん。かえって今度は、木が多すぎちゃって土石流が発生するようになってきちゃっておる。膝が痛いのでやりおうせないと言っている。

そういう状況の中で、飯伊森林組合は年間4億事業をこなしたって、100万円の人件費が出

ないという。もうアップアップだ。そこへ持ってきて大北森林組合はああいうことだもんで、木はほったらかしで、全然補助金は国から下りて来んし、大北森林組合は継続が厳しい話が出だしとるんだけど。 ああ上野駅とか言ってテレビで画像が出るが、どんどんと日本国中から大都市へ人が流れ込んだ。だけど出ていけない先祖のところを守らんならんと残った。その衆が今、つづいて自分たちの子どもを育てたりして、またその子どもの子どもを育てたりする教育というのは、みんな学をつけてさらにどんどんどん国を、その方針の中でさらにどんどんどん高度成長する中で、学をつけて送り出した。だから、今になって子どもが生まれん生まれんというんだが、無くなっていく衆はある程度年齢がいくのしょうがないんだが、子どもがここに増えんということは、次にやっていく衆がおらんという事だ。今死んでいく年寄りが多いというのは、昭和20年におった衆が死んでいくことだむんで、その衆がおってくれたおかげだ。だけどこれから子どもが増えんという事は、後が続かんという事だ。そういうところの現実を考えてもらうと、飯田市だって広域連合で知の拠点だとか広告だとかいってあるが、そんなにばたばたと簡単な話ではない。 人が動かんという事は、産業も経済も成り立って行かないということになる。丘の上の物づくりにしても、飯田の食品にしたって、昔からのお菓子にしたってそうだけれども、もう伊那の平の工業団地の中で人の取りあいだ、10円・5円の差で。そうやって現実にものを考えた時に、この南部というところは、またさらに北部へ向けての平地の飯伊と違ってもっと弱体化している。

そういう中で、教育の理論だって、ICTとかわからん訳ではないが、義務教育というやつは、まだ小さい子どものうちは、親の目が届くところからやっぱり小学校はいきてもらうべきだと思うし、そういう意味から言うと、中学になってある程度体力がきたら、ある程度的人数の中で、南嶋教育長が言うようにそれだけで人間は出来上がっていかないということはあるもんで、ある程度の規模の学校にして、せめて高校へ行く前の体力ができる中学から高校へ行くまでの時は、ある程度的人数でICTを含め、人間関係も含め、体力も含め、勿論能力が一番大切なんだけれども、それも含めてやっていくには、できるだけ早くある程度的人数のまとまった進学校を南部で作り上げないと、北部や西部で一緒になれる話じゃないし、それを確実性を探りつつ、手を入れていかんならんICTや支援員なども各町村努力して行かんなんと思うが、一番基本なところはそこだと思ってあるし、市だって10万人切る事を危惧している。こんなことは日本国家だって間に合って行かんことになる。爆発的に増えている中国だって最後は食料の問題になると思う。早くある程度のものに仕上げて、それでもってどういう風に教育していくかというところを、早く南部で仕上げにやなんと思っている。そうしないと何もかも中と半端になっちゃやせんかと思う。金ばかりかけていつもいつも小規模なところを、そんな事をやっているんなら早めにそういうところを作って、早く教育そのものして成長させていかんと、南部は北部と比べて全てに格段に遅れておると思う。

良く自分の地元を理解して、良く頭をまっさらにして地域の状況を考えてもらうと、必然的に恐ろしい事になっちゃっていることがわかる。どうなっちゃうのというのが現実問題として。今のペースで言ったら消滅集落にはならんかもしれないが、えらいことだ。

○ 他に何かご質問ご意見を。

今町長の話にもありましたように、昨年度の生まれた子ども達が、15年後南部地区5町村どのくらいいるかという、全部で55人しか高校入学する子がいないという数字が出ていました。それで南部全部でやっても55阿南町だけでも15だったと思います。もうそんな数でしかない。もう先が見えてるという状況で、さあその先どうしたらいいのかなあということが、新聞記事に出ていた状況で。

○ 岡田事務局長

＜第3回教育環境のあり方検討委員会 記録 の資料に基づいて説明＞

○ 松澤総務課長

今の各校長先生からの聞き取りを聞きまして、先ほどと同じ『小規模校・少人数学級における教育環境のあり方について』のご意見を引き続きお願いします。

【意見】

- 1月17日の教育委員社会教育委員等研修会 分散会意見交換又は、小中学校の校長の話を聞くで、我々が話し合っ『どうなの。』と聞いた時にはだいたい、ほとんどが「それは大勢の中でやらせてくれれば」となるんだけどね。というのが、ある程度の年齢とある程度の地域へ行くと、それが、親が方向をととなっちゃって、社会教育委員の研修会の中では、あえて今年度そういう機会を持たせてもらったんだけど、「やあ。良い機会を設けてもらったよ。」という声が非常に多かった。なぜかという、こんな人数だとは思ってなかったし、こんな状態だとは思ってなかった。だから、こういうようなことで、情報を設けてもらってありがたかったし、自分の意見を言えたり、聞けたし、言い機会がよかったということでありますので、いろんな子どもの情報が行き届いていないというのが大きく作用している。と思うところもある。

これから先、いろんな検討会をやっていくんだが、代表がおるので、その中で情報を共有していくというのがものすごく大事なあとと思った。

そしてまた学校校の話の中では、学校長ははっきり言えないの、何がという、自分の学校だもんで、何とかして残して行こうというようなこと。一般論からいくと、ほとんどの校長さん方は、これの弊害は大勢の社会に出て、大勢の中の社会生活が困難を来すだろうなという予測を、校長さんがたはみんな持っている。どの校長さんも言った事は、人と人との関わりに苦勞するだろうなあ、将来大変だろうなあということ。ですので、結論から言うとうこういった情報を、保育園の頃からどんどん発信していかなくやなあ、こんなことを思いました。

- とりあえず阿南町で考えると、やはり小学校はともかく、中学の時に新しい人と関わる勉強をさせたいという、新野はもう各クラス1ケタの人数になってしまっている状況で、12年間以上、保育園を入ると14年・15年という間を、同じ1ケタの人数しか関われない子どもたちは、ほんとうにかわいそうだと思う、その点で行くと、富草・大下条・和合については、一中に行った時に、新しい人に出会える大きなチャンスがあって、30人の中で学んでいる事、先ほど言われるような人間関係の学びが、まだ一中の方はできる環境にあるんですが、新野の子どもたちは、本当にかわいそうだなと思っている結果で、今年度中学へ行くときに二中を選ばずに他の学校を選ぶ、来年度もそんな傾向があることを聞きますと、少人数の中のデメリッの部分の部分を親も感じているのかなあと感じたし、少なくとも教科に関しては先生たちは指導要領にのっとって、子ども達に力をつけている状況だが、人に関わるというのは人がいないと始まらない。何年か前、一中が2クラスでやっているときに、当時のお母さんたちの話を聞くと「テストの結果をみて、数学は勝ったけど、国語は負けた。」と聞いた時に、2クラスあるということはそのいう事なんだ、お母さんたちでさえ、ものすごく競うという思いが強かった。それにも増して子どもたちは、あのクラスに負けまいという気持ちになるんだろうな、それはいいなと思った。5ヶ町村のことまで進めようとする、時間とエネルギーとが必要となると思うが、少なくとも町内の中学生の子ども達には、一時でも早く「こんなにいろんな人がいるんだ。」という経験をさせたいなというふうに思う今日この頃です。

- ありがとうございます。

全体的に、今の意見交換会それから校長等の先生の意見を聞いても、お話しがあったように待ったなしの状態であるということです。ここまで来ておって、もう10年も前から「統合すべきだ。」という意見が出ておった訳なんですけれども、ここへ来てまだこんな討論しかできていないという歯がゆさもあるんですが、自分としては、討論を広げていけれんのかなあという住民を巻き込んだというか、そこらも問題なのかなあ。こうした委員会とかやれば出るがなかなか出ない。さっき情報がでていないという認識不足も、あるのかも知れないんですが、このまままだ何年も進まないというのもと思う。

- これ言ってから今1年経つか、2年経つか。

教育長や首長のおる中で、検討して、意見を持ち寄らまいかと言ってから。

- まだ1年です。

- それ以前の前座と言うのは、おらほの町村そのものを考えてみると、選挙の になったりで取り上げてこなんだ、それから特に学校と言うのはそういう事から言うと、選挙に影響が

- 山村留学とかいろいろ入れて、まだ自分のところで何とかしようとしている。
- それはそれであると思う。それはそれで協議してもらっていいと思う。
- 何か時間がかかるような気がする。
- 何で一中二中が統合するのがだめで、南部で統合するのがいいというようになるんでしょう。
- まず時代の背景で、今までこれまで重症化するまでの間は、町内の衆はまだいけるという頭があった。特に新野地区の衆も。だから一中二中の統ターゲットしか出て来なかった。だけど年数を経てきた中で、これはもう一中二中の話だけではないぞというのがわかって来た。それとインフラの整備が進んで、自分たちも教育会議を体験するようになった。だいたい新野の衆だって買い物はだいたい飯田だでな。好いたように行けるようになった。そう言うもののインフラのありがたさが変わって来た。実際新野から一番北部は高森まで通っている。飯田はもう普通になっている。そんなことは昔は考えられなかった。そういうものも手伝って来ている。
- だけど一中二中が一つにならんという話しじゃなくて、南部がというところに話が行ってしまっているのか。いきなり。
- 下條の村長は何か 2 クラス作りたいて、でないとクラス替えができないと言っている。せつかくやる統合中学も、子どもの成長にやっぱり意味を成していかなだろうと、だから何とか子どもが減っていくことも確実視されておるし、早くそう言う形にしていきたい。
- 山村留学とかそういうのをやるにあたって、いろいろな民間とのタイアップとかで、イベント的なものとか運営されていることに、違和感を覚えるんです。ほんとにそれがいい事なのか。村のためでないのかとか。効率を上げるための策でしかないのかとか。妙な感じを受けない訳では無いので。そういうところに行かないでこれを救うと言ったら、もう方向が無いんだったらばらまいているものを、売木であろうが、新野であろうがどこであろうが、一緒になってやっていくということしかとりようがない。子ども増えない。山村留学というのは子どもだけを取り込んでいく話だが、本来なら子供を産める世代を取り込めるのが、あるべき姿ですかね。でもそういう策もとれない。そしたら今あるものをより効率的にするしかできないんだったら、先ほど町長が言われたように一中二中の統合、あるいはもっと上のところのまとまりというのを具体的に進めるより現実的に手がないです。絶対子供は増えないです。山村留学なんて来ても帰る。もうそんなことを考えている時代じゃないと反対してきた人たちは、分かり始めたんでしょうか。
- もう静かになった。もう年を取った、そんなことを言っておれなくなった。
- たとえば反対とかで声を出してきた人たちは、新野なら新野の全員が声を出していた訳では無くて、たまたま声の大きい人が言っていたがために、総意という部分でとられている部分があるのではないかという気がする。だけどクラスが 1 人になるという事実を、情報として知らないんだと思います。あまり危機に感じる情報が無いから、「そんなに少ないの。」と話していると「そうかな。」という声を聴くと、ホントに大変なんだよというアピールをしなきゃいけないと思う。
- 例えば二中が無くなると、新野はどういうデメリットがあるんでしょうか。
- デメリットというのは誰にとってなのか。子どもたちか地域か。
- 地域とそれから今までは学校が無くなるというのは、一つの文化だとか経済的な基盤だとかが喪失すると言っていた方たちにとってはどうなのか。それと、今話題になっている子どもの適正とか社会性の問題だとか言うものを比べたときに、もう切羽詰まった状態に來ていますよねこっちは、子どもの人間性が喪失されるような事態になっているんだったら、そういったも

のを考えたら、どういった手を打つべきかというのを考えるのが普通だと思う。

- この間も雪まつりの衆と話したら、「中学が無くなると雪まつりが消える。」と言うので、そんな馬鹿な話は無いと言ったんだが、通学する話なんで、「小中一緒になって練習することが出来ない。」とか言うので、「そんな事ありっこない。」と言っておいた。そうしたら「休みが今の様にとれなくなるので、協力してもらえんくなる。」と言うので、「そんなことあらずけ。」と言ってやった。南部の統合中学を作った話で、そんな細かい話をしておっちゃだめだと言ってやったが、そんな細かい事まで心配しておる衆もおるが、そんなことはいいことだが、ただ地域の人間の心情としては、学校が大きく一つ消えたという話しになると、やはりその地域の人間たちの気持ち・元気、そういうものは失われると思うけど、どうも考えてみると、新野というところは篠原健吉さんがずっと住み着いて、新野に学校をしたという中では、大した教育者だったとは思うんだが、その思いだとか、そういうのに教わったとかいう衆が、70・80の衆が多くて、その思いが強い衆が大きな声を出しておった。ところが今、学校に対してはそういう気力もなくなった。自分のことも心配しなきゃならなくなった。生き残った衆も少なくなったのでどうか静かになった。時代の流れというものもあると思うし、現実、時代が流れる中で今の人だとか、生徒の物理的な減少、そういうものを踏まえて考えざるを得なくなったし、今度は大きな問題が出てそこまで対立する問題ではないと思う。
- 私あの8ページのところでまとめて、社会教育委員と教育委員、公民館長も含めて話し合いをした中で、ここには書けなかったんですけど、最後の方に「非常に良かった。いろんな見学会だとか施設を觀たり町内を巡ったりと、そういうのある中で、去年泰阜の村長が「けもかわプロジェクト」で皮をみんなで体験で作っておったら、「こんなことしとる場合じゃない。」と恐ろしい勢いで怒って、一回やってみるかと言ったら「よかった」と言ってそれで終わったんですけど、直接事務局の方へは良かったというけど、「阿南町はしゃっつらだ。はっきり言って、南部地区でこんな話をしても、阿南町自体が全然血を流してないじゃないか。近々では泰阜でも合併をして、どえらい苦勞をして話をして、一つ一つ問題を、今回で言えば「雪まつりの休暇はどうなるのか」とか、そういうのを一つ一つ潰して行って、協議をしてそれなら統合しますよと、そういう作業を何年もして、合併をしてからも1年くらいはごたごたして、それでも今良かったと今言っておるんだけど、他の町村はもう一町村で一小学校一中学でも、できるだけのことはやっているが阿南町は何をやっているんだと。やってないじゃないかと。中学だってもう何十年もずっとやっとなって、よかったよかったと、こんな協議を何回やっても無駄だとはっきり言われました。
- 今日時間も3時までということなんで、今出た意見の中で情報不足、現状の把握があまりされていないという問題もあるし、今言うようなこともあるし、これもう少し情報を開示していくとか、住民の方にも情報発信をして、「こういう現状なんだ。」というものを、PTAの方・保護者の方は、うまく検討とかしておられるのかな。情報発信なんかはしておるのかな。
- 今教育環境の検討会には、会長が出席しておっていただけるので、だんだんわかってきたと思うんですけど、いざPTAに帰ってきてその話が広まるかと言うと、なかなか会長さんたちもそうした機会がないという話の中で、今度はそうした役員なら出席していただけるという中で、検討委員会とPTAの役員を全部集まっていたいて、意見交換をして、そうした機会をして段々と広めていかんとダメかなと、この間の定例教育委員会にもそう言った意見が出ております。検討委員会の間では自分たちも、そろそろ意見を出し合ってどういうふうにしていくというのを次回からはやって行きましょうという、委員同士の意識統一されておまして、話し合いをしていく段階に入っております。
- さっき言ったやつは、教育環境の検討委員会というやつか。
- 違います。教育委員社会教育委員等の研修会の中です。
- 首長と教育長が集まった会議は、1年間に何回やるか知らんが。

- 年1回で、去年2月にやって。
- それじゃ今度もっと回数を増やしてもらおうように頼んで、提案させてもらうかな。その段階ではみんなそのつもりで乗るという話しだったので。それで俺も始めたわけだな。
- 今年の2月2日だ。だからさっき言っていた南部の教育懇談会は、きっかけで今年の2月2日にやって、前向きに考えるようになって、それを今度大倉さんが言ったようにこれをどういうふうに積み重ねていくんだというところへんを、今年度の教育懇談会で話すことになるんじゃないかなあと想像している。そこら辺が出来れば、次は私の試案だけれども、各5か町村の何人かずつ集まっていたいただいて、そこで南部の統合中学校に対する検討委員会みたいなものを作るようになってくるのかなあ。ただそれにはこの間の、今年の2月2日に天龍村でやった時に、首長さんたちも単なるそういうような話が出たから、それじゃ統合中学をという訳にはいかないぞと。分かるような気がする。何にも手を尽くさないでそのまま統合と。首長さんもある程度、山村留学みたいなものを取り組んだ中で、1・2年やったけどもダメだという形の中で統合へ持って行く方が、首町村としては顔が立つのかなと。そういうような考え方なんだな、首長さん方は。
- しかし小学生と中学生が全部足しても200名強ですよ。阿南町全部で300名いないんですね。そこに6つの学校があるというのは、それ自体で小規模校になっちゃうんですよ。間違いなく。逆に言ってそれは、一中学一小学校になったら小規模校にはならない。議論される内容が違ってくるし、予算についても全然、例えば売木で1名の人に年間1,500万円かかると言っていましたけど、これが2人になった時にあるいは10人になった時に1億5000万円かかるとかではないですよ。10人になると多分5,000万円とかそういうところで済むはずで効率も上がるはずなので。
- 松澤総務課長
今ご意見がまた出ましたが、また総体の中で意見がありましたら行ってもらって、(2)に移らせてもらいますが、2020年に向けたICT教育環境のあり方について、説明をお願いしたいと思います。
- 岡田事務局長

＜15ページの資料の整備の実施概要(案)の資料に基づいて説明＞

【意見】
○ これは32年度までに作っちゃわにゃ、怒られるの。
○ 怒られるというか。学習指導要領でやって行くという一つの方向性が出ているものですから、できる環境を整えておかないと、その授業はできないということです。
○ プログラミングの授業とかあるらしい。俺もよく分からんけど、それは機器を使っただけの授業なので、なければその授業ができないということなので、学習指導要領には外れちゃうのでそれだけは欲しいということ。
○ 指導要領に外れるとどうなるの。銭が無くてできんと言うとどうなるのか。国がくれりゃいいよ。
○ 補助金なかったっけ。
○ ないです。その分は交付税に入ってますよ。だから整備してくださいよということ。
○ それじゃ増えてこにゃおかしいじゃないか。そんなの無理だは。ほんとに偉いにこりゃ。

- これ累算で言うとどのくらいになるのか約1億だよ。このランニングコストというのはこれが加算されていくということ。要するに平成29年度の分が来るので、30年度は含んでこの金額ということですね。160万と280万が足されるわけではないんですよ。じゃあ31年度は450万のランニングコストで、32年度は算出中で、600万とかそういう金額になるということですね。それは今までの学校運営に対してプラスになるということかその分きつと。
- 今までかかってなかった設備がかかっていくということ。
- 学校の先生は足りるの、こういうのを学校へ持って行って、今の教員が全員出来るという問題でもないんだな。
- 今研修を何人か始めたところ。教員の資質がね。
- 今度阿南高校のアンケートを採ったんですけど、阿南高に何を望むかという中では、飯田方面の高校生にはICTの環境が整っているかどうかで、南部の生徒たちからはICTについては無かった。やはり飯田の方が教育委員会もそうだがICTに取り組んでいるという事で、そういうところにも出てくるのかなあと。
- 極端な話、南部の中学校を出たのでそういうことができないということだけはさせたくない。
- 話を聞いてるとむしろ逆で、飯田の方は進んでいるというイメージですけど、絶対数が違い過ぎるので、高校へ行ってパソコンの授業をやると、できない子がいっぱいいるらしいです。中学・小学校では数が足りないの。
- 格差だな。やっているところはやっているんだけど。
- やっている人は個人でやりますから。個人でパソコンをもってやるで、小学生でも。
- お金をそんなにかけなくても、必要最低限のところでもいいと思うんです。
- これは必要最低限に近い。必要最低限のセキュリティーから始まって、一人一台でなくて一つの教室分ということで。
- 電算の見積もりは高い。医者より高い日当の3万、4万とは何事だ。分からんと思ってふっかけてでたらめだと言ったところだ。
- ただそういうのは、電算でやろうとNTTでやろうと変わらないんだと思う、きつと。
- 電機は今、稲葉クリーンセンターでゴミを焼いたやつでエバラが低価格で入れるって、それで各町村で使ってくれと手を上げさせてら、中電がそれより下回る料金で言ってきて、そうしたらかじか温泉の電気料が、シダックスがそれよりもまだ30パーセントも安い価格だって、そんなのわからん。
- 全然話違いますけど、富草の交差点のところにすごい太陽光があるがあれはどこなんですか。(あれ、個人のものだ。)
- 土地所有者の息子さんが、太陽光発電の建設会社なんです。
- さっき申しましたように、先行事例だとか企業もそういうところに利用してやって行くという事で、最低限というように思っています。
- こういうものに小学生や中学生から親しむのは必要かもしれない。というのは、今は就職す

ればモニターの前で仕事をするという世界なので、キーボードはあるか無いかは別にしても、少なくともモニターを触って仕事をするというのは、かなりの手法として。

- 何度も言うようだけど、視聴覚教室から、パソコン教室からずっとやってきて、何だったんだろうと、もうちょっとパソコン教室だって、パソコンだって一人1台あればもっとやらせればいいのに、これも同じような結果になるのじゃあとちょっと心配している。
- 学校は忙しすぎて、年間の指導要領の中の時間を確保するだけで大変な現状の中に、パソコンを入れなきゃいけないという事で、逆に先生たちが苦勞している。
- こういうものはセキュリティーから始まってセットしておかないとダメだから。はっきり言って。
- 無線LANは必要だと思いますけど。
- よほどこれを積極的にどういうように使うか考えておかないと、床の間に飾る様におそくなっていったらうんでしょうね。先生たちの方もそれなりの学習をしておかないと、特に年代が上の方たちは苦手だと思うんですよ。町長がどのくらいパソコンを使えるか知りませんが、そういう世界だと思います。
- だから先生たちが少ない中で、教科だけで振り分けるのが大変なのに、そこにICTをやれと言ったら、みんながみんなそういう話しになるので、できないなりに若い人たちが担当になって「お前研修に行ってきた。」といって、結局は研修に行かされる。その中でいかに勉強したことを、実際子どもたちに活用できるかと言っているうちに1年が過ぎ。
- 今現在このシステムが来ても、おそらく1か月で使いこなせる様な先生もいると思います。
- この間高校へ行ったら、休み時間はずっとスマホで、何を見ているか知らないですけど、手から離さないくらいになっちゃうので見事なものだ。たまたま休み時間だったのでスマホを手にした時間であったと思いますけど。昼休みはずっとスマホで、パンを片手にスマホをしている。
- 東京へ行って電車に乗ると、9割方やっていますよね。
- この(2)のやつはスケジュール的に組まれておるということ。
- まだ、どのくらいかかるのかという見積もってもらっただけで、これ自体もさっき言った最低限の設備の見積もりなので、そうしたのをこれから選定しながら、いろいろな会社の価格をいただきながら決めていくという話しです。
- だが無線LANは整備していくという方向はあるんだな。
- それは必要最小限のものかなあと。
- これが前に言っていた一括購入というやつか。
- 平成30年度に予定していますと県の教育委員会からあって、それはシステムを入れるという話しではなくて、端末を県下一斉に共同で導入するという事で、要は大量になると単価が安くなるということで、それは全部ハードで、端末タブレット、PC、電子黒板、それから拡大提示装置、主なものはそういうものです。仕様が何種類か出ていて、その中から一つ選んで共同で購入すると、振興組合の方で一括して購入して台数に合わせた負担金を、入札後に決まった金額を各市町村に負担金という形で納めていただく。そういうものです。なので入札の事務とかは全てそちらの方でやるということなので、その辺の事務の手続きだとか選定、細かい事

務が少なくなるというメリットと、さっき言った金銭的なメリットが出るんじゃないかと、ぜひやってもらいたいとかは言っておりましたが、やるやらないは各自治体の判断にまかされていますので。

- やるという町村が出れば安くなるし、俺はいいわと言えば高くなるという話し。
- というか、阿南町単独で買うよりは少なくとも安くなるということじゃないですかね。最低同じか。
- 金額はそうなるかもしれないが、アフターケアのようなところになったときに、ちょっと見てほしいとなった時に、とんでもない所から来て時間がかかるとか、そういう方が心配だ。
- 今までのパソコンの環境が違うというのは、今までは自分がパソコンを操作できるというにで終わっているのを、ICTになると例えばクラス全体で同じものを扱えるという違いですかね。今までのパソコンの環境との違いというのが。
- 今までのパソコン教室って、一人ひとりがパソコンに向かってやる。全体の画面と言うのは無くて、電子黒板とかは無いので。
- 今までより全体で同じ問題をやる環境ができるということですかね。
- タブレットが今までのノートのイメージになるんでしょうね。そこで答えを入れると、目の前でバツと正解人数が何人とか、そういうものが自動的に出てくるそれを逆に言うと、他の学校と一緒に何校とやることができる。そういう世界になっていくんです。
- でも年間で使わないものに、これだけお金をかけるというのがばからしいような気がします。1週間に1時間ですよね。5日間の内に1時間しか関わらないものに関して、これだけのお金が必要なんて。先ほど言われたようにやらなきゃいけないんですよ。
- 数学でも英語でも何でもやろうと思えばそういう授業内容がある訳でしょ。
- 授業で習得したものを後で訓練するというような使い方だとか、英語で言ったら発音を聞くとかいうのもですけど、常にタブレットをかざしながら授業をするということではないので、ものすごく企業にやられている気がします。
- 英語はデジタル教科書じゃないの。
- 発音を聞いたりするんですよ。
- これで勉強が出来ることになれば、教科の先生が1人おれば、阿南町中の学校にそれが飛んで行って、その先生が1人おればそれで行くというふうになりやせんのか。
- 構想としてはそういうことじゃないでしょうか。そういうものだと思いますよ私は。ゆくゆくは。
- でもロボットに授業はできないですよ。
- ロボットでなく一人の先生が4つの小学校の音楽を、その時間にいっせいにやるということ。
- 画面見て勉強しとりゃいいの。
- 大下条小学校で黒板に書いたものが、和合小学校の黒板に出て行くということだな。

- そうそうそういうふうになるはず。
- ただ学力という問題については、佐賀県の武雄市が全国でも唯一のＩＣＴが進んでいるところだけど、それが学力が上がったとは聞いてないからね。
- 秋田県の方がすごい。
- それを聞いているとＩＣＴを使ったから学力が上がるということではない。
- 学力を上げるということではなく、効率を上げるということや先生の負担を少なくするというような、そっちの方が意味があるんじゃないでしょうか。ただ先生の負担が現実的に少なくなるかどうかは分からないけど、基本的には、一般企業の仕事の中でこれをパソコンで今までやっていたものを処理するとなると、人と時間が例えば１００分の１になるという現実の業務がありますからね。ボタン一つで何ページ分の計算をいっしょにやるとかいう世界と、同じイメージで思っただけこういうものをするよと言う人たちがいる可能性がある。
- だけど学校の行くところは学力だよね。学力向上の為には何事もないんだで。そのためにＩＣＴを使う。ＩＣＴは興味関心を持たせるためと思っただけ。
- タブレットやパソコンは無くても、算数の単元で少なくとも３０人いたけど平均点９０は目指せたので。
- 子どもとうまくいくと、子どもが教科書を６時間分持ってくるのが、タブレット一つで済むかもしれない。
- だけどお金がかかるから問題ですよ。
- 小さい自治体では大変だと思う。補助金があれば別だけど。
- 喬木の村長によくこんなことをやったと言ったら、モデルだか何だかで、今そこにおる先生はどういう先生よと言ったら、採用をして使っとるんだって。特別に採用して使っておるんだって。
- 松澤総務課長
（２）についてはこういう方向で検討させてもらうということで、承知いただきたいと思います。それでは、誠に申し訳ありませんが、４の懇談の方に入らせていただきまして、「平成３０年度の予算編成について」ということでお願いしたいと思います。教育委員会より町長さんの方をお願いという事で、教育長さんお願いします。
- 南嶋教育長
＜平成３０年度の予算編成について（お願い）を朗読し提出する。＞
- 松澤総務課長
ありがとうございました。町長の方から何か。
- 勝野町長
講師だとか加配とかは、一応今要望通りにしておる訳だら。
- 南嶋教育長
はい。現在おかげさまで。
- 勝野町長

ICTの関係は今言ったよおうなことだが、今のその学校の調査研究、長寿命化だって大金がいるんだらまた。

○ 松澤総務課長

またこれも統合問題に絡んでくるんだが。

○ 勝野町長

それで社会教育のあれは大平君に言っているが、今建設環境課の方で、県の事業で経営中山間地事業というやつで。阿南町は昔は散々町道の改良からいっぱい手掛けたんだが、それへもってため池整備からいっぱいこさえたりで、飯田市より上回る事業をまわしたことがあったが、その時に持ち込んである県営事業を1項目に入れてもらうように話をしたんだけど、前言っていたところをいっぺんに取れんでも、取って7反分の広い地が門原のところにできるあたりは、今のアトムのような状況のものを求めていかにやいかんと思っておるとこなんだが、今の協議会をつくってやって行ってくれるというので、これ考えると先ほどの難しいという考えの中で、富草と大下条は副町長の内の前の峠でつながったというものだ。だが新野はここから早稲田へ出て帯川へいってから一息は上え上え上らんらん別天地のようなところで、和合はまたああいったところの中で済んでいる中で、なかなかそういうよなところで、新野では文化伝承センターを中心に考えておっていただけるということなんだが、今の町民会館も美術館もそうだが、西尾記念館もそうだが、いっそ来訪者も無いようにただ開けてある話だもんで、そういうのも何か一同に化石館も何も、そういうものが国道沿いにできて、あと文化財があって、そういうものが一堂に集まって見れるところを作った方がいいと思って、前からそういうことを言っておるんだけど。そうはいってもいよいよ腰を上げたらどうと言っておるんだけど、計画的にやらんと町の財政も、こういうICTだとか銭がいることばかりあるんだよな。福祉施設の運営でさえ、人がおらんくなり厳しくなってくる。これもなまたの人間を扱うやつだで、つぶすわけにはいかない。そういう式にどんどん出てくるようになって、何しろ財政運営ができなくなっちゃいかんと思っているが、それにかけて一番でかい上下水道の施設改修があるし、何もかも一斉に、高度成長期にポンポンやったやつが、一斉にいたんできて、国がもっと金をくれればいいが国もなくなっていっそくれりゃせんし、まあできることは一生懸命やらせてもらう。わかりました。

6 閉会

○ 松澤総務課長

それでは3番、4番、その他についてご意見があれば出していただいて、よろしいですかね。

それでは、時間超過しておりますけども、これも持ちまして第2回の阿南町総合教育会議を終了させていただきたいと思います。次回は来年度となりますけど、いろいろなご意見等をお聞きしていただいて、ご報告いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

